

21/1/23 名古屋城天守閣木造復元 市民向け説明会 港文化小劇場 前半部分
(名古屋市民オンブズマンによるメモ)

参加者 36 人

13:30

司会：始める 林

進行について説明する

学芸員による講演会 30 分

15 分ほど動画 休憩

質問などを伺う

時間に限りがあるので進行に協力を

3 時 10 分終了予定

説明会冊子、資料冊子、アンケート

出口で回収

混雑緩和のため前半、後半に分ける

報道機関による取材、記録写真

市長より一言

河村：ありがとう

コロナもある 雨の中サンキューベリマッチ

城意見 ただしていただきたい

務めというか任務というか

ノートルダム寺院が燃えた

木のところだけが燃え落ちた

石、煉瓦 燃え落ちず残る

木の文化 何にもなしになる 空襲

尾張名古屋の生活は苦しかったと思うがシンボル

国宝 1 号

徳川家康でも想像できなかった

全部なくなる

石垣は燃えませんが、傷む

詳細な図面が残る

そのものにして 1000 年は木造ができる

法隆寺は 1300 年

創建当時 65%使われている

1000 後の子どもたちに最大のプレゼントのチャンス

72 になった年寄 任務としてぜひ本物の復元を木造で

いいことやってくれたと
僕の考え 違う考えもいる
ようきていただいた

林：二橋より石垣石材の特徴について講演

二橋：学芸員をしている

考古学、石垣について担当

9. 2キロ 高さ5メートル～13メートル

御深井丸水堀 10メートルくらいジグザグに伸びている

1610年6月—9月

西国外様大名20名、20万人の労働力

建設用のクレーン、パワーショベルなかった

たった4か月でどうやって作ったのか

もっとも有名なのは天守台石垣 加藤清正

石垣づくりが得意で有名

隅の部分が扇の勾配 美しさはたたえられている

約20メートル 名古屋城の中で最も高い

清正是1610年6月—8月で作った 短期間で

どうやって短期間で高く作ることができるのか

石材から見っていく

どんな石材？どんな形？特筆？

石の種類 清正の天守台石垣の一部 部分的に拡大

2つの石がつかわれている

砂岩

花崗岩

御深井丸 花崗岩+砂岩

二の丸 花崗岩+竜山石

兵庫県でとれる石材 愛知のものではない

どうして？あとで説明する

西日本各地から石が集められている

普通の城 近い山から一挙に調達

近場のほうがコスト、労力的に楽

名古屋城石垣 いろいろな種類の石 遠方からも

公儀普請 工事体制 家康の命令で20名外様大名動員

各自で工事を行う

割り当て状況

石垣に沿って文が書かれている 大名の名前

石垣採石場もになったと思われる

それぞれ砕石場を開いて、一部は国元から調達

本丸の中 東南隅櫓 左側 加藤 右 池田 竜山石

石垣に様々な石がつかわれている 公儀普請 分業によるマンパワー動員体制

角ばった形をとっている

四隅に矢穴

矢穴を掘る

硬い石でも割れる

算木積み

打ち込みはぎ 布積み 煉瓦のように積める

矢穴は不可欠

まとめ

皆さんも、天守や御殿だけでなく、今回の話を頭の片隅に

楽しく石垣を見て

13:59

林：名古屋市からの説明

15分ほどの動画

14:13

林：準備のため5分ほど休憩

会場までのドアをあけ換気

金シャチ巡回展を行う